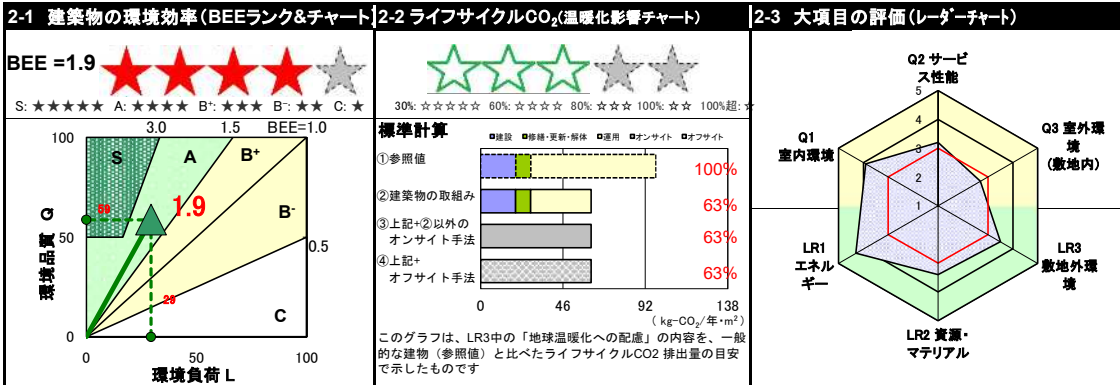
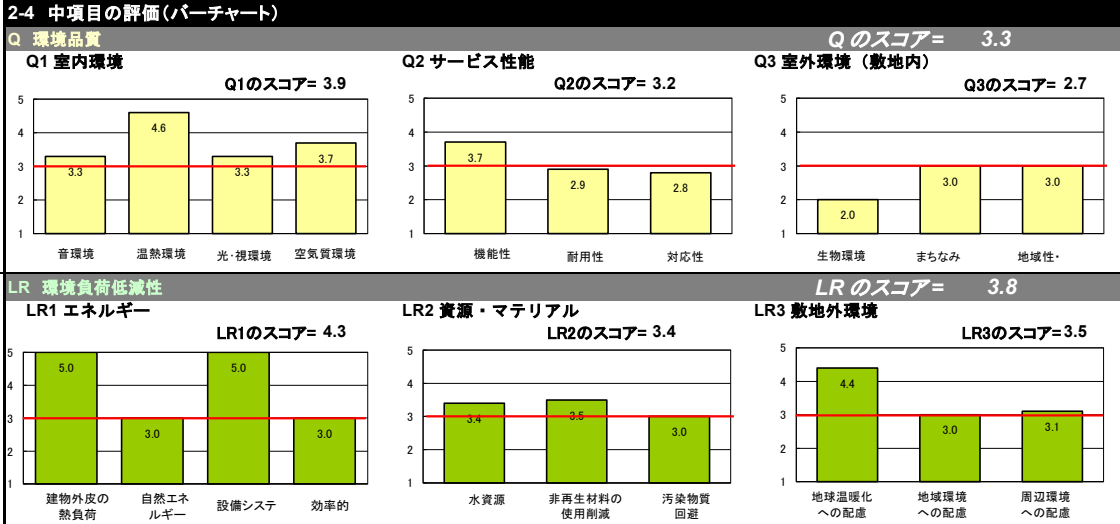


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)リコト安城市東栄町	階数	地上15階
建設地	愛知県安城市東栄町一丁目9番2 他6番	構造	RC造
用途地域	商業地域	平均居住人員	196 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2028年7月 予定	評価の実施日	2026年5月18日
敷地面積	992.11 m ²	作成者	柴田 紀行
建築面積	384.85 m ²	確認日	2026年5月19日
延床面積	4,771.19 m ²	確認者	成瀬 徳行



3 重点項目	
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化
4.4	2.0
②資源の有効活用	④地域材の活用
3.2	1.0

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動に応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
(仮称)リコト安城市東栄町

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		独自基準	環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
Q 建築物の環境品質		重点項目			評価点	評価点	重み係数	評価点	重み係数
Q1 室内環境							0.40	-	3.9
1 音環境					0.4	4.0	0.15	3.2	3.2
1.1 室内騒音レベル					3.0	3.0	0.50	3.0	0.50
1.2 遮音			開口部遮音等級T-2以上		0.5	5.0	0.50	3.5	0.50
1 開口部遮音性能					-	5.0	1.00	5.0	0.30
2 界壁遮音性能					-	3.0	-	2.0	0.30
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)			床材Lr-45使用		-	-	-	4.0	0.20
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					-	-	-	3.0	0.20
1.3 吸音					-	-	-	-	-
2 温熱環境					0.3	3.0	0.35	5.0	5.0
2.1 室温制御					1.0	3.0	1.00	5.0	5.0
1 室温			断熱性能等級5(全住戸外皮の平均貫流率(UA値)0.60以下)		3.0	-	-	-	-
2 外皮性能					3.0	3.0	1.00	5.0	1.00
3 ゾーン別制御性					3.0	-	-	-	-
2.2 湿度制御					3.0	-	-	-	-
2.3 空調方式					3.0	-	-	-	-
3 光・視環境					0.2	2.3	0.25	3.6	3.6
3.1 昼光利用			住居部分の昼光率 平均2.10%		0.3	1.8	0.30	4.0	4.0
1 昼光率					3.0	1.0	0.60	5.0	0.50
2 方位別開口					-	-	-	3.0	0.30
3 昼光利用設備					3.0	3.0	0.40	3.0	0.20
3.2 グレア対策			カーテン、庇の取付により昼光を制御		0.3	2.0	0.30	4.0	4.0
1 昼光制御					5.0	2.0	1.00	4.0	1.00
3.3 照度					3.0	3.0	0.15	3.0	0.15
3.4 照明制御					3.0	3.0	0.25	3.0	0.25
4 空気質環境					0.2	3.6	0.25	3.7	3.7
4.1 発生源対策			F☆☆☆☆の建材を使用		0.6	4.0	0.60	4.0	4.0
1 化学汚染物質					3.0	4.0	1.00	4.0	1.00
4.2 換気			居室において十分な開口部を確保		0.4	3.0	0.40	3.3	3.3
1 換気量					3.0	3.0	0.50	3.0	0.33
2 自然換気性能					3.0	-	-	4.0	0.33
3 取り入れ外気への配慮					3.0	3.0	0.50	3.0	0.33
4.3 運用管理					-	-	-	-	-
1 CO ₂ の監視					3.0	-	-	-	-
2 喫煙の制御					3.0	-	-	-	-
Q2 サービス性能					-	-	0.30	-	3.2
1 機能性					0.4	3.7	0.40	3.8	3.8
1.1 機能性・使いやすさ			Gbitクラスのブロードバンドが利用可能		0.4	3.0	0.40	5.0	5.0
1 広さ・収納性					3.0	-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応					3.0	-	-	5.0	1.00
3 バリアフリー計画		独自			3.0	3.0	1.00	-	-
1.2 心理性・快適性					0.3	5.0	0.30	2.0	2.0
1 広さ感・景観 (天井高)					3.0	-	-	3.0	0.50
2 リフレッシュスペース					3.0	3.0	-	-	-
3 内装計画			共用部分において取り組み数4		3.0	5.0	1.00	1.0	0.50
1.3 維持管理			維持管理に関する取り組み6		0.3	3.5	0.30	-	-
1 維持管理に配慮した設計					3.0	4.0	0.50	-	-
2 維持管理用機能の確保					-	3.0	0.50	-	-
2 耐用性・信頼性					0.3	2.9	0.31	-	-
2.1 耐震・免震・制震・制振					0.4	3.0	0.48	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)					3.0	3.0	0.80	-	-
2 免震・制震・制振性能					3.0	3.0	0.20	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数					0.3	2.8	0.33	-	-
1 躯体材料の耐用年数					-	3.0	0.23	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		②			-	2.0	0.23	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					-	3.0	0.09	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					-	3.0	0.08	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			給水管・排水管・汚水管:期待耐用年数40年以上		-	5.0	0.15	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔					-	2.0	0.23	-	-
2.4 信頼性					0.1	3.0	0.19	-	-
1 空調・換気設備		②			3.0	3.0	0.20	-	-
2 給排水・衛生設備					3.0	3.0	0.20	-	-
3 電気設備					3.0	3.0	0.20	-	-
4 機械・配管支持方法					3.0	3.0	0.20	-	-
5 通信・情報設備					3.0	3.0	0.20	-	-

3 対応性・更新性			0.2	3.0	0.29	2.8	2.8	1.00	2.8
3.1 空間のゆとり			-	-	-	2.6	2.6	0.50	
1 階高のゆとり			-	3.0	-		3.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ			3.0	3.0	-		2.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	-	-		3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
1 空調配管の更新性	②		-	-	-	-	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	3.0	0.20	-	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	3.0	0.13	-	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	3.0	0.13	-	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	3.0	0.27	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.27	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.30	-	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出	独自③		-	2.0	0.30	-	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④		-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	3.0	0.30	-	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④		-	3.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	-	-	3.8
LR1 エネルギー			-	-	0.40	-	-	-	4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制		省エネ 断熱性能等級5	3.0	5.0	0.33	-	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.17	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		BEI=0.73	3.0	5.0	0.33	-	-	-	5.0
4 効率的運用			0.1	3.0	0.17	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング			3.0	3.0	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制			3.0	3.0	-	-	-	-	
集合住宅の評価			1.0	3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング			-	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制			-	3.0	0.50	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	-	0.30	-	-	-	3.4
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水		節水型便器・節湯機器等を使用	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	1.00	-	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	3.5	0.63	-	-	-	3.5
2.1 材料使用量の削減			-	3.0	0.07	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			-	3.0	0.24	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	3.0	0.20	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	② 独自	アスファルト(再生路盤材)断熱材(押出法製)リサイクルフォーム3種bA/スタイロフォーム)TOTOユーティリティー専用水栓	3.0	5.0	0.20	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	2.0	0.05	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自	フリーフロアの廃材利用	3.0	4.0	0.24	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.0	0.68	-	-	-	
1 消火剤			-	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)			-	3.0	0.50	-	-	-	
3 冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境			-	-	0.30	-	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮	①	ライフサイクルCO2排出率63%	-	4.4	0.33	-	-	-	4.4
2 地域環境への配慮			0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止			-	3.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.2	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制	独自	駐車場、駐輪場等、適切なスペース・導入路を確保。	-	5.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			-	2.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.1	0.33	-	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音	独自		-	3.0	1.00	-	-	-	
2 振動	独自		-	-	-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制			-	3.0	-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	3.7	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		光の性質に関する配慮や省エネルギーに関する配慮がされている	-	4.0	0.70	-	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	

重点項目スコアシート
【仮称】リコッタ安城市東栄町

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE:建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア	
① 地球温暖化対策				4.4	
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.4	0.10		
② 資源の有効活用					3.2
Q2-2	耐震性・信頼性	2.9	0.09		
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09		
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.5	0.19		
③ 敷地内の緑化				2.0	
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化：34.4%/建物緑化：0%	
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0	
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)リコット安城市東栄町

計画上の配慮事項	
総合	<p>名鉄新安城駅前であり、また国道1号線へもすぐに出られ、交通の便が良い。</p> <p>外装には、アースカラーを採用し、周辺環境に配慮。</p>
Q1 室内環境	<p>採光・通風をできる限り確保し、居住性を高めるように配慮。</p> <p>床スラブは、約220mm～270mmの厚みを確保し、階下への衝撃音の伝わりを軽減。また、強度を落とさずにスラブ自重を軽減、天井に小梁のない広い空間が確保できるボイドスラブを採用。</p> <p>建材はF☆☆☆☆を使用。</p>
Q2 サービス性能	<p>共用部は間接照明を利用し、内装を計画。</p> <p>インターネットの集合一括契約、地上波デジタル放送、BS・CSアンテナから受信する電波(4K・8K対応)の混合配信等情報通信設備の充実。</p>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>防犯カメラの設置、遠隔監視システム、オートロックシステム、侵入防止格子等により防犯性に配慮。</p> <p>駐車台数に考慮しつつ、道路沿いに緑地を設ける様配置。</p>
LR1 エネルギー	<p>外皮の平均熱貫流率0.6を各住戸クリアし、断熱5等級の断熱仕様とし、一次エネルギー消費量等級6等級をクリアできる様にした。</p> <p>共用部、外構の照明、非居室はLEDを使用し、消費エネルギーの低減に配慮。</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>節湯・節水機能を充実し、資源の保護に配慮。</p>
LR3 敷地外環境	<p>敷地内にて出来る限り建物を南へ配置し、周辺建物へ日影の影響を低減。</p> <p>騒音等 法令を遵守し、地域環境に悪影響を与えないように配慮</p> <p>敷地への進入路を2ヶ所設け、渋滞発生 of 緩和を考慮。</p>
その他	